

令和元年度 第2回苫小牧市社会教育委員会議（書面会議） 会議概要

基準日：令和2年3月30日（月）

審議委員：山口議長、小林副会長、岩井委員、大橋委員、大澤委員、北岸委員、
佐藤(明)委員、佐藤(天)委員、藤島委員、渡辺委員 計10名

※本審議会については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、参集
しての会議を中止し、書面にて会議を開催いたしました。

1 議 事

(1)第五次生涯学習推進基本計画に基づく令和元年度の取組状況報告

第五次生涯学習推進基本計画に基づく各課の取組内容及び自己評価について事務局より説明。評価結果については、全取組項目 225 件のうち、A 評価が 202 件、B 評価が 21 件、C 評価が 1 件、D 評価が 1 件となった。(昨年度は全 223 件のうち、A199 件、B21 件、C1 件、D2 件。)

<意見等（整理・要約）>

	意見等	意見等に対する事務局の回答等
1	子ども発達相談について、担当職員の増員数が分かると良い。	担当職員を前年度より3名増やして対応したとのこと。
2	つみきの会支援事業について、各高校の活動の交流の場などを新たに企画することはできないか。または、現状が続くようなら事業の停止や見直しが必要ではないか。	今後活動の希望があった場合の相談及び支援体制などについては維持し、活動の受け皿としての機能について継続していく考えだが、現在の状況が続くようであれば根本的な見直しが必要とも考えているとのこと。
3	ナナカマド教室について、夜間教室においても若者の申込がないという解釈で良いか。	ナナカマド教室の夜間の教室は、昼間働いている若者の学び直しのニーズを想定しはじめましたが、そのような目的の若者の申し込みは来ていないという状況です。
4	あいサポーター研修の評価が下がった理由は。	あいサポーター登録数の目標数に達成できない見通しであったことから B 評価としたとのこと。

5	高齢化の問題は如何ともしがたいが少数人数でも連携出来ている点を喜ぶべきか悩ましい。	各施設で入会への声かけやサークル活動の周知を行っていますが、今後も改善に向け検討していきたいと考えます。
6	前年度 A 評価から B 評価となった取組番号 35 について、この記述では評価が下がった理由が分からない。	ご指摘の箇所については A 評価が正しい記載でしたので訂正いたします。
7	地域社会と学校の連携事業について、今般のコロナウイルスについて社会教育の立場から何が出来るのか考える必要があるのではないか。	新型コロナウイルスに関しての社会教育事業として、美術博物館ホームページにて、各家庭で塗り絵や工作が楽しめる「おうちミュージアム」を発信しております。 今後も感染拡大防止対策の中で可能なアプローチについて検討してまいります。
8	COVID-19 発生以降に中止された様々な行事が来年度に引き継がれ実施されることを望む。	中止事業に関しては、同様の内容での開催は難しい場合もあるが、可能な限り引継ぎ次年度開催に反映されるよう、関係各課に申し伝えます。
9	ボランティア活動はたいへん重要なファクターであり、今後も市民誰もが生涯学習活動のしやすい環境づくりや市民ボランティア参加を促すなど意欲を育てるようなことが一層必要であると考えことからボランティアの可視化も必要ではないかと思う。	ボランティア活動の啓発や参加機会を充実することは重要と考えております。 今後は、苫小牧市ボランティアセンターと連携し、情報の共有等によりさらなるボランティア活動の推進をはかり、ボランティア可視化の方法についても学んでまいりたいと考えます。

<結果> 委員10名中、承認10名で、承認される

(2)令和2年度生涯学習課・各施設の事業概要

生涯学習課と各社会教育施設の、令和2年度予算及び事業概要について説明。

<意見等（整理・要約）>

	意見等	意見等に対する事務局の回答等
1	新型コロナで休校になった今こそ図書館の役割は大きいと思うが、休館は	市では新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、北海道の緊急事態宣言を踏まえ、

	<p>とても残念。図書館が指定管理施設のために休館であるなら、市としての責任は大きい。</p> <p>このような時だからこそ図書館を利用できるような体制にしてほしい。</p>	<p>市が所管する52の施設について、直営と指定管理施設の別なく一律に3月4日から19日まで臨時休館としました。</p> <p>道内では休館を行わない市立図書館もございましたが、苫小牧市においては複数の感染者が出ており対策の強化が必要と判断し、このような措置となりましたことをご理解願います。</p>
2	<p>科学センターにて巡回パネル展示を開催するとありますが説明会などを合わせて実施してはどうか。</p>	<p>科学センターでは、今年度に講演会を行ったテーマについて関連した巡回展を、来年度開催として選定したものです。</p> <p>巡回展のパネルは、テーマの漫画パネルの他に解説パネルも展示することから、説明会は予定しておりませんが、最新の科学技術に注目をしながら事業を検討してまいりたいと考えております。</p>
3	<p>事業概要予算の記載が分かりづらい。</p> <p>様式の統一などを図ってはどうか。</p>	<p>次年度については資料の作成方法を見直し、わかりやすい内容となるよう努めます。</p>

<結果> 委員10名中、承認10名で、承認される。

(3)その他

- ①次年度より苫小牧市が胆振管内社会教育委員連絡協議会の事務局となるため、胆振管内社会教育委員連絡協議会に関する役職が当たることとなる。
- ②苫小牧市文化賞及び文化奨励賞規則を一部改正する。

<意見等（整理・要約）>

	意見等	意見等に対する事務局の回答等
1	<p>文化賞等の表彰式はなぜ市役所で行わないのか。たくさんの方に知ってもらえるのでは。議場コンサートのように、表彰者の作品の一部も発表できるような場が良いのでは。</p>	<p>文化賞表彰式については、市で行う他の表彰を参考に、セレモニーが開催でき、かつ表彰式後の会食が可能な施設を会場としております。</p> <p>表彰式当日に発表等を行うことは、表彰者の負担も大きく難しいものと考えますが、表彰者の事績を市民に知っ</p>

		<p>ていただくことは重要と考えますので、ご意見は今後の開催の参考とさせていただきます。</p>
2	<p>文化賞・奨励賞選考についての意見の取りまとめについて、文化の分野によって考え方や価値観も大きな差異があり、当日配布の資料を見て短時間で業績内容等を評価することは難しい。</p>	<p>このたびの改正は、表現の修正と推薦時期の変更となっており、選考の際に社会教育委員会にてご意見をいただき、その内容を参考に教育委員会にて文化賞・奨励賞を決定する流れは変更しておりません。</p> <p>選考については委員の皆様にご負担をおかけしますが、本市の文化の普及振興をはかるため、表彰者を選考することについて社会教育委員の皆様のご見識に基づくご意見が不可欠であることから、今後もお力添えをいただけますようお願いいたします。</p>

<結果> 委員10名中、承認10名で、承認される